

会議名	第 46 期 一八会 第 2 回 役員会議事録			2025 年 5 月 28 日	
				書記	中村
議 題	各月例会案、視察研修案等について				
日 時	2025 年 5 月 27 日(火) 19:00～21:00		場 所	菅原乳業株式会社 会議室	
参加者	役 職	氏 名		役 職	氏 名
参 加 者	会長 副会長	菅原 州平 北浦 宏祐		幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	表 宏明 本田 龍祐 岡本 康寛 清水 風馬 中村 和丸

No	表 題	内 容
1	開会挨拶	<p>菅原会長 5 月例会および増強委員会を経て、現在非常に多忙な状況である。 6 月例会が 2 週間後に迫っている。 5 月、6 月は慌ただしかった。 今後は万博企画、視察研修、増強委員会など多くの予定が控えており、会員の協力がますます必要となる。改めて協力を依頼したい</p>
2	5 月例会、第 7 回増強委員会の感想と反省	<p>中村委員： 5 月例会は会長の進行が良く、スムーズに進んだと感じる。 懇親会では、追加注文や金銭のやり取り(特に領収書が必要な場合)を明確にしておくべきだと思った。 増強委員会はもっと多くの人数が集まってほしい。出席義務がないから行かなくても良いという認識を変えるため、何か良い方法がないか考えるべき。</p> <p>表委員 5 月例会は欠席した。 増強委員会では、数名の一八会に入会したきっかけを聞いて良かった。入会きっかけは人それぞれ異なるパターンがあることを知れた。 田村全会長とのやり取りを増やし、もっと前面に出てもらった方が良かったかもしれないと感じた。</p> <p>岡本委員 5 月例会のワーク(SWOT 分析など)で、何を書けば良いか迷い、筆が進まない感じがあった。 今回の増強委員会については特に何も思わなかった。 増強委員会は出席義務がないため参加しないという認識の人が多く感じられた。しかし、今後の一八会のことを考えると出席すべき。例会と同様に出席回数に含めても良いのではないか。</p>

No	表 題	内 容
		<p>アンケートを実施することを提案（入会きっかけ、入会前の会のイメージ、入会後のイメージ、改善点など）。これは増強のヒントが隠されているのではないかと思う。</p> <p>本田委員 5 月例会は一八会らしい会で、しっかり学べた点が良かった。 懇親会では、皆ともっと交流できるような形式になっても良かった。食事をするだけで終わってしまいがち。人が話しやすい機会を設けるため、場所や形式に工夫が必要かもしれない。 増強委員会では、自身が話しすぎてしまったと反省している。</p> <p>清水委員 5 月例会では、皆の会社のことを知らないことまで知れて良かった。 懇親会については特に問題なかった。 委員会全体、または自身も含めて、全然喋れていない。もっと喋っていききたい気持ちはあるが、実際どう喋れば良いのか分からない現状。 ありのままで良いと思う（会長談）。</p> <p>北浦副会長 5 月例会の作成資料については好評で、分析内容が的確でよい企画だったという意見も多かった。欠席者で希望者には資料の提供も検討したい。 懇親会については、着席の移動も今後考慮したい。 懇親会場は適当な場所が見つかりにくく、同じような場所になりがちである。 増強委員会については、会長に話を長くして頂いたことを反省。趣旨説明を明確に行うべきだった。9 月例会準備に偏りすぎたという意見があったことを認識している。 9 月のオープン例会だけでなく、それ以外も見据えて修正しながら進めたい。</p> <p>菅原会長 6 月例会は資料作成に時間がかかり、ワークものの詰めが甘くなった印象。役員の方を含めた練習ができていなかったことも反省。 AI を使った SWOT/クロス SWOT 資料は素晴らしかった。資料はお土産として配布したが、ワーク前に配布し見てもらいながら、ワークを進めるのも有効だったかもしれない。そうすればディスカッションに時間を割けた可能性がある。自分たちだけで全てを作り込むのではなく、仕立てるという面白さも感じた。 増強委員会は、時間が押したことが反省点。特に 46 期メンバーと一緒に揉んで共有して臨むということが全くできなかった。三役としても、時間がない中で方向性やストーリーを考えたが、それが裏目に出ってしまったと感じる。9 月例会の準備に偏りすぎという意見について、9 月例会という場を使ってメンバーを一本化したいという会長としての意図があったが、その理解を得るための説明や意見交換が不足していたことを認識している。 全員が 4 月総会に参加しているわけではないことなどを把握できていなかった。 会員増強数にあまり重点を置いていない自身の考えと、会長経験者などの意識との間にギャップがあったかもしれない。皆に苦勞をかけたかもしれないことを反省。</p>

No	表 題	内 容
3	6 月例会について	<p>6 月例会は三役で作る形式で進める。 テーマは「経営者の自分軸と経営哲学」。砂村氏の件もあり、主軸を引き継いで行う。 自分軸と経営哲学の概念、必要性、構成要素、事例、探求手法についてパワーポイントに沿って説明。</p> <p>自分軸：個人の判断・行動基準であり、追い立ち、経験、感情から生まれる。個人の指針であり、コンパスに例えられる。経営哲学の出発点となる。</p> <p>経営哲学：経営における価値観・信念であり、経営体験、理想、社会から生まれる。経営判断の基準であり、航海図に例えられる。</p> <p>自分軸がぶれると経営もぶれる可能性が高い。経営哲学を見つけるためには、まず自分軸を見つめ直すことが不可欠。</p> <p>本日のゴールは、自分軸と向き合い、見つめ直し、掘り下げ、語り共鳴し合うことで軸を強固にし、経営哲学の出発点とする。</p> <p>進行は 5 部構成（イントロダクション、座学、内省ワーク、宣言と共鳴、まとめ）を想定。イントロダクションではアイスブレイクと 3 問ワーク、ペアシェアを実施し、話しやすい環境を作ることが目的。</p> <p>座学では自分軸の必要性、構成、探求の問いについて理解を深める。VUCA 時代において、自分自身のコンパス（判断軸）が必要となる。軸がある人となない人の比較を通じて、軸の重要性を再確認する。軸は価値観、経験、信念の 3 要素で構成される。事例として、ビズリーチ創業者の南壮一郎氏の生き方を紹介。やりたいことリスト作成、70 点主義、自分を明確に定義するなどの実践例。</p> <p>自分への問いかけの手法として 3 つの問いを紹介。本音に触れるつもりで取り組むことがポイント。</p> <p>第 3 部は内省ワークとして、「自分軸深掘りシート」記入、ペアインタビュー、個人整理タイムを行う。思考整理だけでなく、感情や経験に根差した言葉を探す時間。</p> <p>ワークシートの形式について、選択肢式（10 個）とフリースペースを組み合わせる案、または質問内容をパーソナル寄りに変更する案を提示。参加者が書きやすい形式について意見を求めた。</p> <p>第 4 部は宣言と共鳴として、内省ワークで見つけた自分の軸をショートスピーチ（1 人 2 分以内）で発表。最後に自分軸カード（一文）を作成し、共鳴コメントを受け取る。軸は一人で作るものではなく、他者との共鳴で強くなるという意図。</p> <p>第 5 部はまとめとして、自分軸と経営哲学の関係性を振り返る。自分軸を持って経営した結果が、他者から経営哲学として見られる奇跡かもしれないという締め方。自分軸が経営哲学の出発点であると再確認する。</p> <p>考察点 前段の座学（経営軸）から内省ワーク（自分軸/パーソナル軸）へのつながりが不自然に感じる。経営者も一人の人間であり、その積み重ねが経営判断に影響するという説明を、ワークへの橋渡しとして明確に入れる必要がある。最初の説明を簡単にするか、ワークを経営者向けパーソナルに寄せるか検討が必要。</p>

No	表 題	内 容
		<p>ワークの質問内容について、幼少期や社会人など年代で絞る、または尊敬する人の言葉など、経営者のパーソナルを深掘りする方向性もありなのではとの意見。</p> <p>ワークシートは、参加者が書きやすいように事例を載せるか、選択肢を提供するか検討が必要。最初のアレルギーが出ないように、書きやすい場面を作る誘導も必要。</p> <p>ペアインタビューでの気づきをまとめる 3 部の内容と、最後に一文にまとめる 4 部の内容が重複しているように感じる。ショートスピーチで話す内容と、最後にまとめる一文の役割を明確にすべき。</p> <p>内省ワークの質問について、経営っぽい話ばかりだとイメージしづらい可能性がある。パーソナル寄りの質問の方が答えやすいだろう。</p> <p>前段の説明で経営者という言葉が出ると、そちらに引っ張られてしまいやすい。</p> <p>実例(南氏)を最後のまとめに持ってくる方が、自分軸が経営哲学に繋がる流れとして自然に感じられると意見あり。</p> <p>座学から内省ワークへのつながりについて、間に橋渡しとなる説明(個人を形作るものが自分軸の基本となることなど)が必要。硬い話から急に砕けたパーソナルな話になる印象を和らげるべき。</p> <p>ワークの質問内容について、年代で絞ったり(幼少期、中高生、大人)、具体的な体験談(成功体験、失敗)を聞く形式も有効。</p> <p>ペアインタビューでの「どうしてそう思ったの?」という掘り下げは自然に出てくる質問だろう。</p> <p>参加者が考え込まず書けるよう、選択肢や事例などの誘導が必要。</p> <p>今回の 6 月例会企画は内容が盛りだくさんだが、例会として成り立つと思う。内容を削る必要があるか検討しても良いだろう。</p>
4	7 月例会について	<p>テーマは「言葉にできるは武器になる」。</p> <p>タイムスケジュール案を提示。まず突然の自己紹介(1 人 1 分)を行い、その後振り返る。</p> <p>言いたいことが言葉にできないという悩みが多い現状について説明。借りてきた言葉では考えが浅いと見られる可能性がある。</p> <p>重要なのは How to say(どう言うか)ではなく What to say(何を言うか)である。今回の例会では、頭で考えて整理し、言語化できるメソッドを学び、トレーニングを行う。</p> <p>What to say はあなた独自視点、オリジナリティであり、人に否定されるものではない。これは 6 月例会の自分軸と同様である。</p> <p>今の時代は独自視点が問われるようになり、オンライン普及等により発言内容がより重視されるようになった。</p> <p>言語化できない理由として、感じたこと(無意識の感覚)のほとんどは意識されないことを説明。トレーニングによって無意識を意識化し、言葉にできる。</p>

No	表 題	内 容
		<p>具体的なトレーニング方法として、紙を半分に折り、上に思考、下に理由を書き出し、なぜそう思うかを深掘りする(芋づる式に解像度を高める)ワークを提案。</p> <p>経験(出来事+感じたこと)を交えたとより人に刺さる。</p> <p>ワーク例として、「あなたにとって会社とは何ですか?」を提案。2, 3 行から 4 行程度書くイメージ。</p> <p>1 日 3 回ほど続けると言葉のストックが増え、瞬時にできるようになる。</p> <p>現在の案だと 1 時間程度の想定。あと 1 時間足りないため、前段の説明を丁寧にする、ワークを増やすなどで尺を伸ばすことを検討。</p> <p>ワークについて、なぜそう思ったのかの深掘りが苦手な人もいる可能性がある。ループすることもある。継続すればできるようになるという解説が必要と感じる。</p> <p>質問の種類によって、言葉が出やすい人と出にくい人がいる可能性がある。トレーニングとしてなら、もっと簡単なパーソナルな質問を多数こなす方が効果的かもしれない。</p> <p>考察点</p> <p>ワークのトレーニングは、最初はうまくいかなくても継続が重要であることを強調すべき。コツや考え方の部分にボリュームを持たせるのも良い。</p> <p>6 月例会の自分軸の話との繋がり良いと感じる。</p> <p>7 月例会のトレーニングワークは、質問内容や深掘り部分で参加者が難しさを感じる可能性がある。</p> <p>質問によっては、参加者によって考えがループしたり、深掘りが難しかったりするかもしれない。なぜなぜを繰り返すことで解像度を上げる意図は理解できるが、全員がスムーズにできるとは限らない。</p> <p>トレーニングなので、最初は言葉が出てこなくても良いという解説が必要。</p> <p>説明の事例(車の話)が、個性や独自視点との関連が分かりにくいと感じた。</p> <p>自分の乗っている車について話す、または車一台の写真を見て話すなど、具体的な対象を設定した方が個性が出やすいのでは。</p> <p>7 月例会の最初と最後で同じ自己紹介をやって、できるようになっているか確認するのも良いだろう。</p>
5	8 月例会について	<p>テーマは「目標達成」。</p> <p>まず目標と目的をセットで考えるべきという導入から始める。無人島に行く例を用いて、目的の重要性を説明。目的があれば諦めずにやり遂げられる。</p> <p>目標設定から達成までのプロセス(現状分析、目的からの逆算、目標設定、計画立案、実行)を説明。</p> <p>アチーブメントピラミッドを紹介。人生理念(価値観、自分軸)が土台にあり、ビジョン、目標、計画、日々の行動と一貫性が重要である。</p> <p>ビジョンは将来のあるべき姿であり、バランスの取れたビジョン(仕事だけでなく家庭、健康など)が重要であることを説明。</p> <p>人間が幸せを感じる状態として、選択理論心理学の 5 つの基本的欲求(生存、愛・所属、力、自由、楽しみ)を紹介。これらの欲求が満たされている状態が幸せという考え方。</p> <p>自己診断として、50 の質問に直感でチェックし、自分の欲求の強さを測るテストを提案。</p> <p>各欲求が強い人の特徴、メリット、デメリットを説明予定。</p>

No	表 題	内 容
		<p>目標を達成する人しない人の習慣に関する本(50の習慣)を紹介。考え方、目標設定、行動、計画、タイムマネジメントなど7章構成。具体的な習慣の例も紹介する。技術的な部分も含む。</p> <p>考察点 目的と目標の混同しやすさに触れる、目的を持つことの深掘りから目標設定に入る、などの流れも考えられる。 必ずしもワークが必須ではなく、学んだ知識を共有するだけでも良い。 個々の話(目的、目標、ビジョン、習慣、欲求)は面白いが、繋がりがまだ曖昧である。 目標と目的を深掘りするだけでも十分例会になる可能性がある。 会の目的(能力向上、質向上)に立ち返ると、会員自身の目的意識とのすり合わせも重要である。 目標と目的の違いや、目的を持つことの深掘りに時間をかけるのも良いのではないか。 ワークについては、個々の内容は面白いが、全体としての繋がりが曖昧に感じられる。</p>
6	9月例会(オープン例会)について	<p>北浦副会長 オープン例会に向け、6月18日に東京で相手方と三役で打ち合わせを行う予定。日帰りになる可能性が高い、後日皆に報告する。 オープン例会に向けて、会員増強の観点から増強委員会も再度開催していく必要がある。 増強委員会での反省を踏まえ、一部メンバーだけでなく皆で一緒に作っていく形にしたい。 ターゲット層については意見が分かれる可能性がある。</p>
7	その他	<p>イベント企画(万博) 参加者15名が決定した。これは団体割引の対象人数だが、手続きが面倒な可能性もある。 中型バスを借りて行くことを検討している。 出発時間について意見を求めた(朝早く行って多く回るか、遅めに行って食事や休憩を重視するか)。 北浦副会長の経験から、朝一(開園直後)に入らないと人気パビリオンや食事場所が非常に混雑する。平日でも混雑する可能性がある。 バスは姫路駅から出発予定。費用は1人18,000円から20,000円程度と想定。 参加者の中には遠方からのメンバーもいるため、あまり早い出発は参加者を減らすリスクがある。 まずは視察として経験を積むために参加し、ガッツリ見たいというよりは体験を重視する意向。9時頃出発が良いのではないかという意見。 皆で行動すると、個別に見たい場所が見れない可能性がある。ガッツリ見たい人は個人で行く方が良いかもしれない。</p> <p>ふれあい会 10月26日開催予定だったが、田村前会長の運動会と重複する可能性があり変更を検討。 三役から、46期の都合の良い日程候補がないか打診されている。 例年異なる企画(味覚狩り、バーベキュー等)を実施している。今期企画は未定。 参加者全員の都合を合わせるのは難しい。祭りと重なる可能性もある(10月21、22日頃)。</p>

No	表 題	内 容
		シニア会 6 月の中下旬に開催が打診されている。6 月 27 日での調整を試みる意向。
8	決定事項、保留事項	決定事項 万博企画は 15 名参加、バス利用を検討する。 保留事項 6 月例会内省ワークシートの具体的な形式（選択肢 vs フリー、パーソナル度合い）、およびワークの時間配分。 万博企画の具体的な出発時間（午前 7 時頃 or 午前 9 時頃）。 ふれあい会の日程変更候補日の検討。 シニア会の日程再調整（6 月 27 日予定）。 増強委員会への参加人数不足および出席義務がないことへの認識の広がり。 万博企画の出発時間により参加希望者の都合が合わなくなる可能性。
9	総括	第 2 回役員会では、5 月例会および増強委員会の振り返りが行われ、懇親会の形式や増強委員会への参加促進に関する課題が共有されました。 続く 6 月、7 月、8 月の各例会準備について、担当者からの説明があり、活発な意見交換が行われました。特に、今後の例会で予定されているワーク内容や時間配分、座学との繋がりについて、参加者が取り組みやすい形式にするための具体的な懸念点や改善案が多数提示されました。 9 月のオープン例会に向けた準備状況や、万博、触れ合い会、深夜会といったイベントについても、調整事項が多く、今後の対応について確認が行われました。 会の目的（能力向上、質向上）と会員個人の意識とのギャップについても触れられ、増強委員会の活動の方向性を含め、今後の組織運営における重要な論点であることが示唆されました。全体として、多岐にわたる課題に対し、率直な意見交換が行われ、今後のアクションや検討事項が明確になった会議でした。
8	役員会日程	臨時役員会を開催する可能性大。（6 月例会の件他） 6 月初旬（6 月例会前） ※大変申し訳ありませんが、ご協力をお願いいたします。 第 3 回役員会 令和 7 年 6 月 24 日（火）19:00- 菅原乳業（株）会議室 議事録予定者：岡本 懇親会：開催予定、場所未定